

## 安衛活動の進化図る

目次

目次(さいたま市、若林直樹社長)は、さいたま市の大宮ソニックシティで、2025年度全社安全大会を開いた。写真。社員76



人、協力会社23人の計99人が参加した。

若林社長は建設業の高年齢化に触れ、「労働災害が多発すると建設業が危険な職業と見なされ、中堅・若手世代に敬遠されてしまう。安全衛生への取り組みは、魅力ある職場形成という面からも大切なことだ」とあいさつした。

また、近年の安全衛生活動でDX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組みが注目されているとした上で、「現場従事者の中でも中堅・若手世代の安全衛生への関心の高まりが期待されているため、当社もDXへの取り組みに対応し、安全衛生活動のさらなる進化を図る」と述べた。

続いて、成伯将史氏(ナリキ)の安全衛生協力会代表あいさつ、安全衛生表彰、埼玉産業保健総合支援センター産業保健相談員で医師の遠藤敦氏による安全衛生講話などが行われた。  
(7・10)

